The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	e-mailについて : 素人ユーザーの雑感
Author(s)	河田, 聡
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1991, 82, p. 26-28
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65934
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

e-mailについて－素人ユーザーの雑感

工学部応用物理学科　河田　聡

１．はじめに

最近は計算センターを全く利用していないので固辞したのですが、では何故利用しないのかを書けばよいと言われ断わり切れず、こうして原稿用紙を前にする羽目に至りました。昔は、パンチカードを箱に詰めセンターに通い、カードリーダーの前に並ぶ毎日を過ごしたり、またムトーのドラフターに大きな紙を広げていろんな図面やグラフを書き続けた頃もありましたが、最近１０年程は、さっぱり計算センターにはご無沙汰です。

計算センターを利用しなくなった理由は、我々がコンピュータを使わなくなったからではなくて、計算センターより使いやすいコンピュータ、パソコンやワークステーションが登場してきたからです。我々の研究グループ（応物、南研究室）はここ数年来、レーザーＣＴ光学顕微鏡を開発してきましたが、この装置では、３次元物体による光の回析像からその逆計算（逆回析問題を数値的に解くこと）によって細胞や固体材料の３次元立体内部構造を再生します。３次元データ処理ですから例えば500×500×500画素の線形、非線形演算を行なう訳で、メモリ容量も演算速度も極めて重要です。現在は研究室にμＶＡＸⅡを設置してそれを使用していますが、当初はパソコンＰＣ8000のフロッピー数十枚にデータを取り込み、計算センターで磁気テープに変換し、更にレーザー研のスーパーミニコンを借りて計算を行ない、再びその逆をして、研究室のモニタに再生３次元像を表示していました。まどろっこしいようですが、計算センターのコンピュータは使えるメモリ容量が小さく、回線（電話）で送るとまた１晩仕事で、フロッピーを運ぶほうが早かったのです。我々のようなユーザーには大型コンピュータの使い勝手はまだよくなかった訳です。

２．e-mailについて：情報処理教育センターのBitnet

e-mailは88年から使っています。もっとも、計算センターではなく、情報処理教育センターを介して、Bitnetを利用しています。情報処理教育センターのコンピュータは動いていないときが多く（特に、阪大の電話のかからない夜間や、郵便の届かない年末・正月休みに使えないのは致命的で、この原稿を書いている今、3月12日

10時AMもNO CARRIERと返ってきます。おそらく春休みはNO SERVICEなのでしょう。）不便極まりないのですが、情報処理教育センターは、学生の教育のためにあるのであって、Bitnetはあくまでボランティア・サービスなので仕方がないと思います。日本語の使い方もわからないままですが、海外とは、先に述べた時節を除いて頻繁に交信しています。特に学会誌の論文の査読結果を送ったり、ゲラの修正などは、FAXより確実で安全で重宝しています。

３．計算センターのe-mail*

上に述べたように、日本語が使えず（ちゃんと勉強すれば使えるのだろうけど）休日に動かない情報教育センターより、計算センターのJUNETなるものを使いたいと思い、センターに相談して、ワークステーションのアカウントを一昨年取得し、J-UNET用のアカウントをいただきました。私の机のコンピュータは86年以来、Macintoshなので、Eg-talkという通信ソフトも購入しましたが、依然JUNETは使えずにいます*。理由は、使い方がよくわからなく、また面倒なのでちっとも勉強しないからです。まず、ワークステーションを呼び出す内線電話（2921）すらモデムから呼び出せず、その段階すら解決できていません。結局、いまも情報処理センターのBitnetを使っています。外線電話を使うか、専用回線を使ってみれば良いらしいのですが、研究室の外線は少なく、その努力はしていません。

我々のように、e-mailを最小限の努力で、なにも勉強せずバカチョンで使うというユーザーには、まだe-mailは早すぎるといえると思います。まず、繋ぎ方からして分かりません。実際に現在使っているBitnetも、私は、Macの画面上でいきなりmailを書き込む方法しか知らず、打ち間違いがあっても１行入れてリターンしてしまったら、そのまま直し方がわからない状態です。コンピュータに興味がある人にはともかく、実際にe-mailやネットワークが普及すると、私のようなユーザーが大半になると思います。

いまのe-mailはどうやら、UNIXを知っていてコンピュータを使っている人同志の互いの通信法で、その意味で、アマチュア無線仲間の交信の様なもので、まだ一般化できる状態ではないのではないでしょうか？　郵便や電話、さらに最近のfaxは簡単で使いやすいからこそ普及したのであって、e-mailはマニアの間では普及しても、利用を拒絶する人も大勢残るかも知れません。技術革新もさることながら、マニュアルや知識なく、簡単に使えるような工夫が期待されると思います。（私がNECをやめて、86年からMacintoshを使いだしたのも、Macならマニュアルを読まずに勉強も

せずに、いきなりいろんなソフトを動かせる使える事がわかったからです。）

例えば、郵便なら、相手の名前と住所を書けば、届きますが、計算センターでは、私の名前はD63310です。これだけで、多くのユーザーは計算センターからmailを送る気をなくすだろうと思います。阪大以外では、自分の名前がそのままmailのアドレスになっているのに、相手先に私の”背番号”を覚えてもらうのは申し訳ないし、気分もよくありません。（ちなみに情報処理センターも同じで、大分交渉しましたが、依然私はmja2241です。）

4．おわりに

計算センターにおいてネットワークの確立はボランティアサービスの一つだろうと思いますが、もし普及に努力されるなら、不勉強で面倒なユーザー相手を覚悟される必要があると思います。また、電話がなかなか掛からなかったり名前が背番号であったりすると、それだけで素人ユーザーはfaxマシーンに走って（こっちは使いやすい）、e-mailは締めてしまいます。ただ、逆に、使いやすさの問題さえ解決できれば、e-mailの爆発的ヒットは間違いないと思います。アメリカの研究者ソサエティでは、十分普及しているのですから。

全く勉強もしていないのにこのような原稿を書くのは、大変ためらったのですが、あえてそれでもということなので、間違いや失礼を覚悟の上でペンをとりました。御容赦ください。もし、専門家の間で参考になれば幸いです。

後日談

この原稿を書くにあったて、応物の板崎氏に助けていただくうちに、我々の研究室もネットワークに加われるようになりました。その結果、電話回線を使わず24時間e-mailが使えるようになり、しかも、私の名前もKawata@ap. ...とやっと人間らしくなりました。また、計算センターのワークステーションの電話番号2921は別の番号に変更されており、そこから繋がることもわかりました。

この場を借りて、色々お手伝いいただいた応用物理学科樹下研究室と、板崎徳禎氏に感謝いたします。また、寄稿を勧めていただいた基礎工電気、井筒雅之氏にも感謝します。